

（午前11時12分 再開）

議長（上田順康君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番20、19番 上垣内君。

〔19番（上垣内裕一君）登壇〕

19番（上垣内裕一君）議長のお許しを得て行財政改革について質問をいたします。行財政改革については、多くの議員が質問されていますので、重複に気をつけて行いたいと思います。

行財政改革は橋本市の最優先課題であると認識しております。行財政改革が成功するかどうかには合併の成否及び橋本市と木下市政の将来がかかっていると言っても過言ではないのではないかと私は思っております。特に、1期4年間で行財政改革のめどをつけることができない、そういうことであれば、10年たってもできないのではないかと。そういう意味から1期4年間に橋本市と木下市政の運命が決まるのではないかと、それぐらいに考えてもいいのではないかと私は思っております。

以上のことを踏まえて、まず、市長に答弁いただく5番目を質問して、1、4の順に質問をいたしたいと思います。

行財政改革は痛みも伴います。当局、議会、職員が一丸となって努力するのはもちろんのこと、市民の皆さま方にも理解と協力をいただかなければなりません。市長自身、身分保証を考えず、たとえ市民の方々に嫌われても、行財政改革を成功するために心を鬼にして断行すると私は信じておりますけれども、市長の決意のほどをお伺いいたしたいと思います。

それと、市長のパートナーとしての清原助

役と職員を代表して塚本理事の率直な気持ち、考えをもお聞かせいただきたいと思います。

1番から4番まで質問いたします。

18年度予算編成時の財政調整基金と一般会計に使用可能な基金の総額、使用額及び負担額をお尋ねするわけではありますが、使用額、基金取り崩し額につきましては、議員の質問の中で20億8,000万円との答弁がありましたので、総額と残額をお尋ねいたします。また、18年度11名の定年退職者がいらっしゃるということもお聞きいたしました。退職金を18年度予算に計上されているかどうか、2点をお尋ねいたします。

2番、19年度退職者数及び退職手当金額とその財源をどうするのか、お尋ねいたします。

次に、幸い、退職者が多い時期であり、採用を調整すれば、合併で肥大化した組織のスリム化と財政効果が十分期待できると思いますが、18年、19年については上のところで出てまいりますので、20年度から28年度までの効果について金額でお知らせいただきたいと思います。

4番、合併で合意確認された計画を実行し、19年度以降の予算編成を行うには、行財政改革を断行する必要があると思います。しなければ予算編成が非常に難しい。または、できないような状況下にも追い込まれかねないのではないかと、そのように思いますし、今、橋本市は財政有事非常事態ではないかと、そういうふうに思いますが、このところをしっかりとやらないといけないと思いますので、その進捗状況についてお尋ねいたします。

第1回目の質問を終わります。

議長（上田順康君）19番 上垣内君の一般

質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

市長（木下善之君）上垣内議員の質問にお答えいたします。

ご質問の趣旨は、心を鬼にして、市民に嫌われても徹底した行財政改革を進めていかなければいけないのではないかというおただしであります。

今日、地方公共団体においては、分権型社会への転換が求められ、人口減少時代の到来、住民ニーズの高度化・多様化など、社会経済情勢の変化に一層対応することが求められております。

本市は、合併を行財政改革のための最有効手段としてとらえ、本年3月に誕生したわけですが、合併後もさらに行財政改革を推進するために、社会と時代の変転を見きわめ、自らを変えようとする意思を持ち、それを果敢に実行し、「持続可能な自治の営み」を確実なものにしていくことが、今後、我々が新しい視点に立って不断の行財政改革に取り組んでいくために必要なことだと考えております。

今後、行財政だけに限らず、行政改革全般においてこの改革を推進していくためには、市民との協働のもとに私をリーダーといたしまして、職員ともども邁進しなければならないと考えておるところであります。また、議会へのご理解とご協力のもとに推進しなければならない改革も多くあるかと思われまます。そうした意味におきまして、ご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げたいと思っております。

なお、残余の件につきましては、担当参与よりお答えをいたさせます。

議長（上田順康君）助役に答弁を求めているところではありますが、当局において答弁の

調整をされておると思いますが、ここで答弁はありますか。

助役。

助役（清原雅代君）ただ今、市長が決意のほどを答弁の中で申されておりました。私も市長のパートナーというか、補佐役といたしまして、市長とともに頑張ってまいりたいと思います。

以上でございます。

議長（上田順康君）理事。

理事（塚本 基君）壇上からご答弁させていただくのが筋でございますけども、シナリオどおりの答弁書がありますので、自席でご答弁させていただきます。

上垣内議員言われましたように、また、助役も先ほどご答弁しましたように、市長が答弁の中にもありました「社会と時代の変転を見きわめ、自らを変えようとする意思を持ち、それを果敢に実行し」というのが言われるとおりかというふうに思います。

私、理事でございますけども、行政改革推進室長も拝命しておりますので、責任は重大であろうかというふうに思います。ただ、職員の危機感がないというふうなことも多々聞こえてくることもございますので、上垣内議員言われるように、私、電車で通勤させていただいておるんですけども、点字ブロックより1メートルほど下がって待つという気持ちで電車を待つぐらいのことをしなければならいかなというふうに思っております。なぜかと言われますと、後から押されるというふうなことを言われておりますので、それぐらいの気持ちでやっていきたいと思っております。市長の意向に沿った形で、今後、できるだけ進めていきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

議長（上田順康君）理事。

〔理事（塚本基君）登壇〕

理事（塚本 基君）3点目の平成20年度から平成28年度までの組織のスリム化、定員適正化による財政効果についてご答弁させていただきます。

現在、橋本市では本年11月に公表を予定しております集中改革プランの策定に向け、行政改革推進本部を中心に行政改革に取り組んでおります。本プランの改革項目の中には定員管理の適正化及び財政の健全化も含まれておりますが、本プランは平成21年度までの具体的な取り組みを策定するものとなっており、定員管理の適正化計画につきましても、平成22年4月1日時点での数値目標を掲げることとなっております。

したがって、現時点で平成20年度から平成28年度までの効果を示す明確な資料はございませんので、市町の合併の際に協議された資料をもとに効果額を試算した結果、平成20年度から平成28年度の9年間に33億7,500万円の削減効果が見込まれております。人員削減につきましては、75人の削減効果が見込まれており、その時点での正規職員数は550人になると推測されます。参考といたしまして、平成18年4月1日時点での正規職員数は、病院を除く普通会計ベースで624人となっております。

次に、4点目の合併協議会において確認された新市まちづくり計画については、本年と平成19年度の2カ年をもって策定が予定されております新市の長期総合計画の基本的な方向を示すものとなっており、新市まちづくり計画第2節（1）にその旨が記載されております。本市では、本計画に示されている重点施策や分野別の施策の大綱を示す新市の主要事業、合併後の財政を示す財政計画等をもとに、合併後も行政改革の推進を図っております。

しかしながら、より明確な目標を掲げ、さ

らに行政改革を進めるべく、本市では、昨年、平成17年3月29日、総務省より発表された「地方公共団体における行政改革の推進のための新たな指針」に基づき、橋本市行政改革大綱の策定及び橋本市集中改革プランの策定・公表に向けて取り組んでおります。集中改革プランにおいては、本年11月に市民にわかりやすく公表する予定となっておりますが、これは平成19年度予算に反映させるためのものがございます。

現在の進捗状況につきましては、今月1日に開催されました橋本市行政改革推進懇話会において、行政改革大綱の策定に向けて各方面を代表する方々からのご意見をいただいております。また、市内部におきましても、行政改革推進本部を中心として、11月までという限られた期間の中で行政改革大綱の策定及び集中改革プランの策定・公表を行うために協議を重ねているところであります。

以上でございます。

議長（上田順康君）企画部長。

〔企画部長（吉田長司君）登壇〕

企画部長（吉田長司君）2点目の平成19年度における定年退職者数でございますが、本年度に勧奨退職予定者4名の職員を除きまして、13名となっております。その退職金の合計額は約3億3,000万円と予測されます。

その財源といたしましては、基本的には一般財源をもって支出することになりますが、平成19年度以降、本市の財政状況が非常に厳しい局面を迎えるため、平成18年度から10年間に限り、団塊の世代の定年退職者の退職手当に対し発行が可能となった退職手当債の活用も視野に入れてまいりたいと考えております。

以上でございます。

議長（上田順康君）総務部長。

〔総務部長（中山哲次君）登壇〕

総務部長（中山哲次君）次に、平成18年度予算編成時における財政調整基金と一般会計に使用可能な基金の総額、使用額、残額についてでございますが、本年5月31日に平成17年度新市の出納を閉鎖いたしましたところ、財政調整基金残高は13億9,643万4,430円でございます。また、財政調整基金以外に市債の償還の財源として処分ができる減債基金の残高が1億7,251万1,378円、都市の健全な発展と都市機能の充実のために処分ができる地域開発整備基金の残高が12億9,419万682円ありました。合併前には旧市町ともこれらの基金を一般会計に繰り入れ、財政運営を行ってきたところでございます。

また、平成18年度新市予算を編成するにあたりましては、財政調整基金で10億1,000万円、減債基金で約1億2,250万円、地域開発整備基金で9億5,000万円、合計で約20億8,250万円を取り崩さなければならない状況でございます。

したがいまして、平成18年度予算編成後の基金残高につきましては、財政調整基金で約4億650万円、減債基金で約5,000万円、地域開発整備基金で3,800万円、合わせまして約4億9,500万円の残高見込みとなり、新市の財政状況は極めて厳しい状況でございます。

以上でございます。

議長（上田順康君）19番 上垣内君、再質問ありますか。

19番 上垣内君。

19番（上垣内裕一君）助役と理事の答弁は初めからわかっておりまして、市長と考えは同じというふうにお答えを要約しますとそうであると。なぜ聞いたかと言いますと、やはり、先ほど理事もおっしゃってありましたけれども、職員の雰囲気といいますか、全体的にもう一つぴりっとした危機感に欠けているのではないかと、そういうことであります

ので、やっぱりトップである市長なり、それに準ずる助役、それと職員などのトップになります、そういう方がいかに認識をきちっとやって、職員にその決意のほどを示していくかと。そうでないと、職員は車にたとえますとエンジンということになるかと思うので、そのエンジンがなまくらをやっておったのでは前へ進みませんので、やはりフル回転という、そういう形をとらないと、とてもじゃないですけども、橋本市が立ち往生するのではないかと、そういう思いで申し上げたところでございます。

それと、市長、十分認識されて、自分では当然のことだというふうに思っておられるので、答弁の中にあえて言葉が入っていないかと思うのですが、身分保証についてお尋ねしたんですが、それについてのお答えが入っていなかったかなという。決意はこの中に入っていたと思うんですが、どこかの県議会のように身分保証にこだわるといふような市長ではないと私は信じておりますけれども、この場で身分保証は考えていないよと、市民のために嫌われてもいいと、先ほどそういう嫌われてもいいという言葉がありましたので、含んでいると思うんですが、もう一度、その点についてここではっきりと、職員も聞いておりますので、職員をぴりっとさせるためにもやはり、その点をもう一度ここで言明していただけたらと、そういうふうに思います。

議長（上田順康君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

市長（木下善之君）上垣内議員の再質問にお答え申し上げたいと思います。

身分保証の問題のお尋ねが答弁にないじゃないかということですが、私は、もとよりそういうことは考えてございませんで、先ほどのご指摘でございました職員の意識改革の問題であるんですが、お説のとおり、こ

れはもう、職員一人ひとりが市長代行というぐらいの気持ちでそれぞれの執務に当たっていただきたいという強い信念を持っておりますので、夏のセミナーといいますが、研修会にも私は毎回その冒頭にも厳しく強く申し上げて、現状を把握していただくように徹底してまいりたいと思います。そして、特に、職員の朝礼なんかにつきましては、やはり各課課長が絶対権限を持っていますから、その都度その都度、スピーチを一、二分、財政を中心とした、あるいは事務改善、能率が上がるように、そういうことをすべて、その都度立ち上げていきながら進めてまいりたいと思うわけでございます。

議長（上田順康君）19番 上垣内君。

19番（上垣内裕一君）今、木下市長がおっしゃられました、身分保証にこだわっていないと。そういうことは、私も議員の1人として、議員自身もやはり襟を正して、そういう形の中で心を当局と一つにして、議員、当局、職員、三者力を合わせてやらないとやり切れるものではないと、そういうふうに考えております。ここにおられる同僚議員もまるきり同じ考えであると私は信じております。

次に移ります。1番でありますけれども、基金として一般会計に使えるのが5億不足ということでございます。それで、18年で20億8,000万円を取り崩して何とか予算が編成されたと、そういう状況であろうと考えます。これを見ましたときに、果たして19年度の予算編成がどうなるのかなと。もう取り崩すのは4億9,500円。

18年度で20億8,000万円取り崩さんと、何としても予算が組めなかったと。合併したときの有利なそういういろんなあると。これもすべてやはり使えるものを、これも1年使えるわけじゃありませんので、10年なりで使うていくということで、18年度に使える、合併し

たときの恩典である、この資金をすべて使ったと。起債もできるものはしたと。それでなおかつ20億8,000万円足らなかったと。それが基金でうまくいけたと。来年は5億円切ると。それしかないということになれば、どうなるのかなという思いがする。

それで私がお尋ねしておるのは、歳出の削減。ということになりますと、合併で約束したいろんなものやっっていく必要もあると。それを先送りとかカットするということになりますと、約束が違うということになりますので、やはり、ある程度実行していかにかいかんと。そうするとカットするところはどこかということになりますと、おのずから限られてくるわけです。その足りないものをそれで賄えるかどうかと。賄えなければ、市民の皆さま方に申しわけないですけれども、痛みを感じていただかなければならない。そういう事態になるのではないかと思っておるわけです。

そうしますと、急に言われてもだめなので、早く計画を立てて、市民の皆さん方にこれだけのことはこちらでしますと、足りない分は市民の皆さん方の増税、増収で補っていただくよりほかに道がないわけですから、そんなものをばんと出して、3カ月、半年後にお願いますというようなことを言うたって、これは到底理解を得られるものではないと思うので。

後でも、これ、触れますけれども、そういう状況の中でありますので、これをお尋ねしたわけでございます。また後でもありますので、お尋ねいたしますけれども、大変な状況下にあるということ、これ、本当に職員の皆さん方、理解されているのかなということで、非常時、有事、非常事態ということをやはり考えていただかないかんののではないかなと、そういうふうに思います。

それと、もう一つ、この中で、念のために18年度の11人の定期退職の予算が計上されているのかなという思いがあるんですが、ちょっとまだわかりかねるので、ご返答いただきたい。

議長（上田順康君）財政課長。

財政課長（北山茂樹君）お答えいたします。

18年度当初予算、今回の6月に上程いたしました予算の中に18年度の定年の退職者の退職金は含まれております。ただし、退職勧奨については、その時点でまだ人数が明確ではございませんでしたので、勧奨分については含まれておりません。

議長（上田順康君）19番 上垣内君。

19番（上垣内裕一君）当然のことでありますので、先日、勧奨につきましても11人という答弁がありました。かなりの額になると思います。これ、補正予算で組んでくると思うんですが、そうすると、使えるところは4億9,000万円ほど残っておりますところが一番ねらわれやすいのかなと、そういう思いですので、概略で結構です。この11人でどれくらいの額が必要になるのか。

議長（上田順康君）財政課長。

財政課長（北山茂樹君）11名で約3億円弱になろうかと思えます。

議長（上田順康君）19番 上垣内君。

19番（上垣内裕一君）3億円弱ということになりますと、ある金が4億9,500万円ということになる。ここでこれを使うということになりますと、もう1億9,500万円しか残らないという、そういう状況下になってくるということになります。

そういうことでございますので、1番はここで終わって、2番ということで、19年度については13名で3億3,000万円ということで、この退職金の財源、19年度、3億3,000万円、これをどの財源で賄おうとしているのか、お

聞きいたしたいと思えます。

議長（上田順康君）財政課長。

財政課長（北山茂樹君）19年度の退職金の支払いにつきましては、先ほど企画部長も答弁させていただきまして、国におきまして団塊の世代の大量定年退職者等の退職金に対応するために、今後10年間にわたりまして特別措置といたしまして、定年退職者に対する退職金も退職手当債の発行の枠になるということになりましたので、それも視野に入れて検討してまいりたいと考えております。

議長（上田順康君）19番 上垣内君。

19番（上垣内裕一君）すべてそれで賄うと。賄うというより、賄わざるを得ない状況ということで判断してよろしいんですか。

議長（上田順康君）財政課長。

財政課長（北山茂樹君）現在のところ、19年度の予算につきましては、まだきっちりと数字が出ておりませんので、足らず分を退職手当債の発行で補いたいという考え方を持っております。

議長（上田順康君）19番 上垣内君。

19番（上垣内裕一君）足らず分とおっしゃいましたけど、それじゃ、足る分はどこから出てくるんですか。そんなお金、どこにあるんですか。

議長（上田順康君）財政課長。

財政課長（北山茂樹君）そのために一般財源を生み出すために、現在、行政改革大綱をつくり、集中改革プランをつくって、早期に行財政改革に取り組むということで、今、計画されているものでございまして、その中にはもちろん、職員給の削減ですとか、それから施設の統廃合、その中には幼保一元化もあるわけでございますけども、きのうの議員の質問にもありまして、コンパクトシティをめざす必要があるという考え方を持っております、それをできるものから早期に実

施していくという考え方で一般財源を生み出すという考え方でございます。

議長（上田順康君）19番 上垣内君。

19番（上垣内裕一君）もう一つ理解しにくい答弁でありますけれども、これ、今、聞いたら、集中プランを11月にまとめてという。今何もできていない。合併してからきょうで106日目なんです。何もできていないんですね、まだ。行財政改革の一步も前へ出ていない。ゼロなんですよ、今。106日たって。それで、これから11月までにプランをまとめて、プランができた、12月に議会へ条例改正が出てくるんですか。それから19年度の予算、これ編成するのにいつから編成するんですか。19年度の予算は11月、12月でしょう。市長査定が1月じゃないんですか。これ、来年に間に合いますか、今のような、そういう改革をやっていて。その点、どう考えておるのか、お答えいただきたい。

議長（上田順康君）理事。

理事（塚本 基君）1点目の、あまり胸を張ってご期待に添えるような数字ではないんですけども、旧橋本市では平成11年度、さかのぼったら8年、もっと前から行財政改革大綱なるものをつくってこられたわけですけども、実質、15、16、17、18、19年の5カ年で財政健全化計画を立てました。その中で継続してやられておるもろもろの財政健全化に向けての改革なるものは継続してやってきておるような状況でございますので、それはご理解いただきたいというふうに思います。

ただ、職員の給料につきましては、5%カットで進めてきたものが、本年3%になりというふうな緩みもあったやもしれませんが、それは継続して進めてきた中でこういうふうな状態であるというのをまず第一にご認識いただきたいと思います。

その後、今まで旧橋本市でやってきて、高

野口町でもやられてきた改革の中で、新市になってトータルして、さらに中長期的に健全化、これも大きく胸を張って言えることではないかもわかりませんが、健全化をめざすためにどのような組み立てをしたらいいかということで、今回、合併後3カ月、はや過ぎたというふうに言われますけども、その中で集中改革プランなるものを立てていって、市民に公開して、市民にそれを見ていただいて、自ら律するという気持ちで市民に公表していくという形になるかというふうに考えておりまして、議員から見ますと、非常に手ぬるいと思われるかもわかりませんが、我々それなりと言ったら、また怒られますけども、一生懸命努力している結果、そういうことになったということでございますので、ご理解のほど、よろしくお願ひしたいと思います。

議長（上田順康君）19番 上垣内君。

19番（上垣内裕一君）一生懸命やっているというのは私も理解できるし、認めます。しかしながら、一生懸命やっているということ、成果が上がるということとは別問題でございますので、空回りということもございませぬ。そういうことにならないようにということで、私はやっぱり行財政改革、これができなければ何を言うても無駄だと、成り立たないと、そういうふうに考えて危機感を持っております。

行財政改革懇話会とか、そういう形の中でプランをとということで、まだ、いまだ何もゼロだという。本当に危機感があるのなら、そんな各部からピックアップして時間を見て会議をするというんじゃないしに、数名のプロジェクトをつくって行財政改革特別職というようなことで、五、六人で室ぐらいつくって、それですと早くプランを立ててやるというぐらいの、そういう形がやっぱりあってもよ

かったのかなという、そういうふうに僕は思っています。

ですから、もう済んだことは言うても日には戻りませんので、きょうで106日目、あしたは7日目ですが、とにかく一日も早くやるということで、いろいろと細かいこと聞きたいことがあるんですが、省略します。頑張っ
てやっていただきたいと、そういうことで質問を終わります。

議長（上田順康君）理事。

理事（塚本 基君）済みません。ちょっと言葉足らず、説明不足で申しわけございません。

上垣内議員言われるように、行政改革推進室なるもののメンバーは、既に市長が来られる3月ぐらいから立ち上げて、いろいろ研究、検討してきております。長くなって悪いんですけども、私が推進室長でございますけども、その中には総務部長、企画部長、財政課長、職員課長、それから企画経営室長、企画経営室の補佐、財政課の補佐等々が入った、いわゆる、今、議員言われたようなプロジェクトチームで3月ぐらいからたたき台なるものをつくってきておるところでございます。それも成果は上がってないということはないんですよ。ないんですけども、ご披露できるようなところまではまだ行っていないというふうなことでございますので、一生懸命頑張りたいと思いますので、ご支援、ご協力のほど、またよろしくお願ひしたいと思ひます。

議長(上田順康君)これをもって、19番 上垣内君の一般質問は終わりました。

この際、午後1時まで休憩いたします。

(午前11時53分 休憩)